

様式2

平成26年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

校訓 自律・創造・協働

中間評価

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケット・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな 他者を思いやる人間を目指す		

年 度 当 初						評 価 結 果 （9月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケット・マナーの育成 □	(1)全職員の一致協力的指導(全体集会、集団行動(1年生オリエンテーション)、礼法指導(2,3年生))	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあたった」「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全体集会での指導に全職員で取り組む。	・1年生オリエンテーションはマナーアップに貢献した。 ・全体集会での指導に全職員で取り組んでいる。	B	・引き続き全体集会での指導に全職員で取り組む。
	(2)エチケット・マナーの育成(挨拶の励行・態度等の指導)	・年間8回実施した頭髪服装指導で4回以上指導を受けた生徒が41名(7.7%)であった。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」「言葉遣い良い」生徒「前年度(中学の時)に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全職員で日常的な挨拶の励行に務める。 ・「マナーアップ運動」などで、部活動の生徒による挨拶運動に継続して取り組む。	・教員からの朝の声かけに務めており、徐々に挨拶の習慣化ができてきている。 ・部活動の生徒による挨拶運動は7月(3日間)と9月(6日間)に実施し、挨拶の啓発に貢献している。	B	・今後も機会をとらえ意識の向上や実践を行う。 ・部活動の生徒による挨拶運動を12月と2月に実施する予定である。
	(3)生徒指導(頭髪服装指導)の徹底(生徒会との連携)	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・頭髪服装指導で指導を受ける生徒数を減少させる。	・頭髪服装指導で年間4回以上指導を受ける生徒数が減少すればA。※	・全職員で日常的に指導すると共に、定期的な頭髪服装指導、身だしなみの向上を図る。	・定期的に頭髪服装指導を実施し、担任と連携しながら粘り強く指導している。 ・4回以上指導を受けた生徒数は昨年度と同程度である。(8月末時点)	B	・日常的に指導を繰り返す。
	(4)遅刻指導の徹底(学年団・生徒指導部連携)		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。※	・登校指導を通じて、全職員で指導に当たるとともに、早期から保護者への連絡を徹底する。	・10回以上の遅刻者数は、1学期末の比較で、昨年度は8名、今年度は1名と大きく減少している。	A	・生徒に関する情報を共有し早めに注意、指導を行う。
授業改革・学力向上	(1)授業を大切にする(授業改革)	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材(プリント等)を工夫した。 ・本校では4名がエキスパート教員に認定されている。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「学習意欲が高まった」「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・エキスパート教員の実践を参考にしたり、研究授業、公開授業等各種研修の機会を活用するなど、相互研鑽を図る。 ・実習班の編成を工夫し、生徒による学び合いを推進する。	・研究授業、公開授業等を活用し、生徒の学習意欲向上に向けた授業づくりに取り組んでいる。	B	・取組を継続する。
	(2)基礎学力の向上(SPI小テスト・模試による基礎学力向上)	・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等を実施してきた。 ・25年度はジュニアマイスター取得者が11名(ゴールド、シルバーの合計)であった。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。	・基礎学力定着が図れた」生徒「学習意欲があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・基礎学力診断テスト(1,2年生を対象に実施)の平均点偏差値55以上を維持する。※	・基礎力診断テスト(7月実施)では、1,2年生とも平均点偏差値55以上を達成している。 ・SPI小テストの低得点者に対し、補習指導(2時間×3日間)を行った。 ・基礎力診断テストの学習力結果によると、1年生において家庭学習をしない生徒が大幅に増加している。	B	・課題などを工夫し、生徒が家庭学習に取組めるよう指導する。
	(3)専門的資格取得の促進(ジュニアマイスター取得者増)		・ジュニアマイスター取得者を増加させる。	・12名以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。※	・早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促す。	・実習班での学び合いを意識し、実践を行っている。	B	・取組を継続する。
キャリア教育による進路実現	(1)系統だったキャリア教育による進路意識・職業観の育成	・25年度は就職希望者は100%内定した。	・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。3年生は学年合同LHRを実施する。また、1,2年生には学期毎のLHRを活用し、進路講演会を実施する。	・3年生の合同LHRの実施も含め就職、進学への準備対応ができた。	B	・取組を継続する。
	(2)コミュニケーション能力の育成による進路実現(1分間スピーチ・面接指導の充実)		・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	・生徒「1分間スピーチはコミュニケーション力の向上に役立った。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話力を高めたり、作文指導を徹底する。2,3年生に、面接で実力が発揮できるようSHRで1分間スピーチを行う。	・進路指導部、学年団、各科の連携、協力により面接指導ができた。また、1分間スピーチも行った。	A	・2年生での取組みを強化する。
	(3)インターンシップ・企業研修の推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で外部の方からも評価を受ける。※	・専門性のある企業開拓に務めるとともに、綿密な打ち合わせや事前指導を行い、研修を充実させる。	(インターンシップは10月に実施予定)		
	(4)企業研修旅行の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立てる。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・研修先の精選と入念な計画により、効果的な研修となるよう務める。	・企業研修旅行では、各科に応じた研修先を選定して実施した結果、生徒からも良い反応が多くあった。	A	・次年度以降もよりよい研修になるよう見学先を選ぶ。

心の教育の推進と部活動・生徒会活動の推進	(1)部活動の活性化(部活稼働率の向上)		・運動部活動の奨励と強化、文化部活動の活性化を図り、加入率と稼働率の向上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・部活動稼働率が95%以上ならばA。(1)	・クラブ一斉会議で部活動加入の意義を生徒会執行部より説明する等オリエンテーションを充実させる。 ・部活動を継続するための指導を徹底する。	・部活動と同好会の加入率は85.6%であった。(4月末時点)	A	・取組を継続する。 ・部活動稼働率の調査を行う。
	(2)生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実・部活応援)	・25年度全国大会出場部活等は10であり、成果をあげた。 ・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等をおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導する。生徒が達成感を持つことができるように、生徒会を中心に学校行事に全員が関われるように工夫をする。	・学校祭では生徒の自発的な創意工夫が見られた。また、執行部がクラスのサポートや全体の運営などに自発的に取り組むことができた。	B	・各行事で生徒相互のコミュニケーションがとれるようにする。
	(3)心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるにつれ、読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに朝読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広まった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・図書委員会活動や早朝貸出等の朝読書に関わる取組を推進する。	・朝読書は順調に取組めている。また、強化週間における昇降口貸し出しなどに取り組んだ。	B	・取組を継続する。
	(4)人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・人権教育部専任と担任団の連携を密にし、生徒の実態に応じた学年ごとの人権教育の具体的な取り組みを設定する。 ・生徒が主体的に参加できる人権教育LHRの展開を図る。	・専任と担任団の連携を図り、生徒を主体とした人権教育の実践に取組んでいる。	B	・11月の公開LHRに向けて、取組を一層進めていく。
ものづくり人材育成	(1)TEASによる環境教育の推進(5Sの徹底)	・朝清掃を行い、環境への意識を向上できた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・引き続き、5Sの徹底を進め、加えて環境を大切にする意識を育てる。	・実習等のみならず、教室、廊下などの5Sに努めている。	B	・引き続き全職員で取組む。
	(2)ものづくり事業の充実(地域委員会との連携)	・ものづくりコンテスト等(電気工事部門、電子回路部門、マイコンカー)で全国大会へ3名が出場した。 ・地域委員会を各科の指導に生かしたが、継続できなくなった。	・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 ・地域委員会に代わる委員会を創設する。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	・ものづくりコンテストへの参加を推奨し、入賞を目指す。 ・地域委員会の趣旨を継続し、専門教育の改善を図る。	・全国若年者ものづくり競技大会で3位(電気工事職種)及び敢闘賞(4位相当賞、電子回路組立職種)の成績を収めた。 ・地域委員会を継続する見通しである。	A	・各種大会等で上位入賞を目指して努力する。
	(3)安全教育の推進	・各科の実習で安全教育をすすめた。	・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育が推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・実習時に5Sと連動した安全面での指導の徹底を図る。	・実習や課題研究で取り組んでいる	B	・取組を継続する。
	(4)プレゼンテーション力の向上(課題研究発表会)	・課題研究等を進める中で課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・科内発表会を充実させ、専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。	(課題研究発表会は1月に実施予定)		
開かれた学校づくり	(1)地域社会や中学校との連携(公開実習・学校見学会の充実)	・昨年度は中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらった。	・地域社会や中学校等に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等をおし、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持てた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・中学生体験学習(7月)、学校公開(11月)に加えて、中学校教員対象学校説明会(6月)、学校見学会(10月、12月)を実施する。	・中学生体験学習のアンケート結果では「興味を持てた」等が95%であった。 ・中学校教員対象学校説明会(6月)を実施した。	A	・学校公開、学校見学会等を充実させる。
	(2)学校評価の充実		・学校が掲げた評価項目について、目標達成のための方策が適切に実施されている。	・学校関係者評価委員の意見を踏まえて評価を行う。※	・評価基準や目標達成のための方策等の見直しを視野に入れ、適正な評価を行う。	・評価基準の見直しを行った。	B	・アンケートの内容や目標達成のための方策について再検討する。
	(3)ホームページの充実(保護者へのメール配信)	・HPを改善し、学校からの情報発信の充実に務めた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・積極的な情報発信に努める。	・ホームページの更新が十分とは言えない。	C	・各分掌、部活動等でホームページの更新を進める。
	(4)PTA活動の推進		・引き続き、保護者・教職員との協力的指導が行えるようにする。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(2)	・PTA活動への参加の呼びかけを行う。	・9月末時点での保護者のPTA活動への参加人数はのべ483名であった。	B	・引き続き、「マナーアップ運動」、「交通安全週間」、学校祭等の参加協力を保護者に呼びかける。

26年度 評価基準	
アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(2)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目＝協議による